

社寺名 内子八幡神社(喜多郡内子町内子1125番地)

奉納者 岩田清謹(源助)

奉納年 弘化4年11月(1847年)

解説

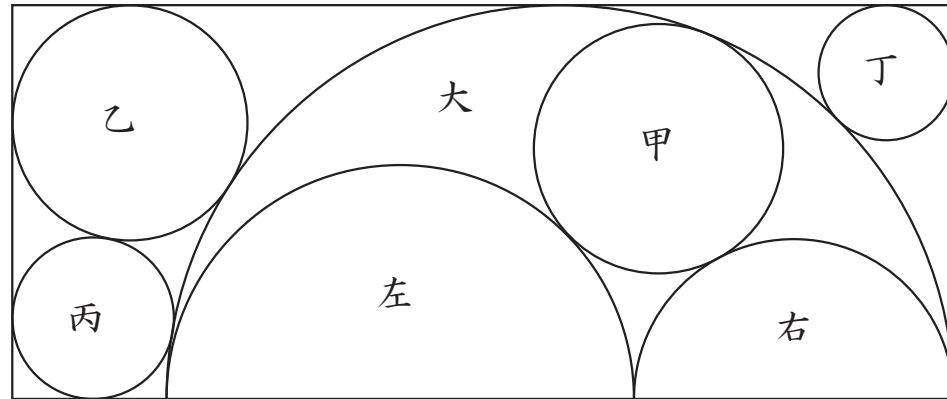
師寺井政道は新谷藩十人扶持大阪定府関流和算家であり、関流二伝荒木村英の門下生沼田敬忠の教えを受けている。

寺井が新谷藩に関流数学を伝え、それを学んだ岩田清謹、清興兄弟が、大野猶吉(元郷三島神社の算額奉納者)に伝えた。

現存している算額で、これ程鮮明に神社拝殿で見られるのはめずらしい額である。

昭和60年10月9日内子町指定有形民俗文化財に指定されている。

弘化四丁末歳十一月良辰



印

奉懸御廣前

應初學之請而述
算法自問自答

今有如圖直内畫大半圓
其全徑六分方為左四分
方為右其中間挾甲圓大
半圓外容乙丙丁之三圓
焉只云丙圓徑若干問各
諸圓徑及長幾何

答曰依左術得各

術曰置八箇開平方為乙加
三箇為長實四歸之為乙
圓徑實三之加五分名為
半圓全徑實乘四分名為
列左數冪以地除之加右
數而以除左右相乘之數
為甲圓徑實置三箇減天
乘地得數為丁圓徑實呂
只云數為率各列實數以
率數乘之得各合問

新關流算學寺井政道門人
兼齋岩田清謹識

印

印

問題文

図のように、長方形(直)内に大・左・右なる半円、その間に甲円、大半円の外に乙・丙・丁の3円を入れる。丙円の直径が既知(若干)のとき、各円の直径及び長方形の横(長)の長さはいくらか。